

みなさんの声を議会に届け

「市民の命・くらし第一」の京都市政を

日本共産党京都市会議員団

止めどもない
消防職員の削減は撤回を



職員削減をどこまでも続ける京都市。10年間で123人の消防職員の削減と、政令指定都市で一番減らしています。市長総括質疑で、党議員団が「大宮消防出張所廃止や消防職員の削減は消防力低下の最たるもの。撤回すべきだと質すと、副市長は今までと同様の消防体制は維持できると強弁しました。」

引き続き、命を守る消防職員削減の撤回へがんばります。

京都市は本気で
若者支援に取り組みべき



党議員団は、LDAのみならずと一緒に、給付制奨学金制度の創設とブラックバイト対策の充実を京都市に求めました。給付制奨学金について、副市長は「国が対策すべき」と今までと同じ態度に終始しました。ブラックバイトについては、「公への相談が少ない」ことを認めたものの、「労働局・府市連携で取り組む」と独自の対策を打てない京都市の姿が明らかになりました。

引き続き、若者支援の声を高め、京都市を動かすため全力でがんばります。



市バス一日乗車券の
値上げは許せません

交通局からは、市民の方々も利用されている一日乗車券の値上げを検討し、秋にも値上げに踏み切る提案がされています。

党議員団は、「一日乗車券の値上げは許せない」と追及するとともに、市バス事業における問題点を指摘し、市バス事業特別会計予算に反対しました。



市民の要求実現にがんばっています

この間、求めてきた
東西線における安全対策で前進



2月の半ばには点字プレートが設置され、視覚障害をお持ちの方がホームで何面目のどこにいるのか現在地が分かるようになりました。また、今年度早々に、同じく東西線点字ブロックの改善が行われ、これまで車両の混雑で乗ることができなかった方も乗れるようになります。

宅地内の鉛製給水管
取替助成額の上限
引き上げが実現



党議員団が、昨年秋の決算特別委員会で求めた、「宅地内の鉛製給水管取替の助成額の上限引き上げ(5万円↓10万円)」が、新年度予算の中に盛り込まれました。